

# あ と が き

弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授

研究紀要編集委員長・教育学博士 野口 伐名

この「社会福祉学研究」は、前号の「修士論文抄録集（第一号）」を改称して通算第2号として刊行したものです。第一号の「修士論文抄録集」においては、修士論文の抄録だけを収録していましたが、本号においては、この「修士論文抄録集」を「社会福祉学研究」と改称したのを機会に、本学大学院社会福祉学研究科の教員の研究成果をも合わせて収録して、本研究科の社会福祉の学問的成果を世に問い、広く社会福祉の構築に貢献しようとするものです。この「社会福祉学研究」は、第一部 教員の研究論文と第二部 本社会福祉学研究科修士生の修士論文の抄録の二部から構成されています。本号の執筆者のステイタスは、次のようになっています。

## 第一部 研究論文

- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 野口 伐名 | 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授（児童家庭福祉特論）    |
| 八巻 正治 | 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授（障害者福祉論）      |
| 齋藤 繁  | 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科長・教授（高齢者福祉心理特論） |

## 第二部 修士論文の抄録

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 富田あすみ | 弘前学院大学社会福祉学研究科2006年度修士生 |
| 鈴木 聖子 | 弘前学院大学社会福祉学研究科2007年度修士生 |

本学社会福祉学研究科は、畏神愛人のキリスト教の理念に基づいて、社会福祉制度や福祉行政の利用者或いは受益者である一般住民一人ひとりの側に立って福祉問題を考え、個々の福祉問題に着目してそれらの解決方を考究しています。それは、より人間らしい暖かい福祉の心の育成であり、社会福祉・社会保障の問題として社会全体が関心を持ち解決していかなければならない問題であるからです。そして、今、社会福祉が求められている人間像は、「IQ（知能指数）+EQ（倫理指数）」の奉仕性の高い資質であり、自己実現する人間です。イギリスの物理学者ガポールによれば、これからの生きがいを実現されてくる生涯学習社会の人間は、「IQ（知能指数）」が高だけでなく、「EQ（倫理指数）」（人間の道徳性）も高くなければならないといます。残忍性の高い人間は「EQ」の低い人間であり、「EQ」の高い人間は奉仕度の高い心の豊かな自己実現する人間です。その意味でも、この「社会福祉学研究」が、伝統的な劣等処遇の福祉観「ウェルフェア」から人間の権利の尊重と最善の利益に重心を移動して自己実現の支援をめざす新しい福祉観「ウェルビーイング」へと福祉観の進歩的な変容をもたらし、現代日本の社会福祉の実践と構築に少しでも生かされることがあれば、望外の喜びです。この社会福祉学研究の編集に当たっては、今思うと私の力不足からあれもすれば良かったこれもすれば良かったと悔いも残りますが、ご一読いただきまして、いろいろご教示くだされば幸いに存じます。

2007（平成19）年2月28日（水） 神の祝福を受けて刊行される佳き日に